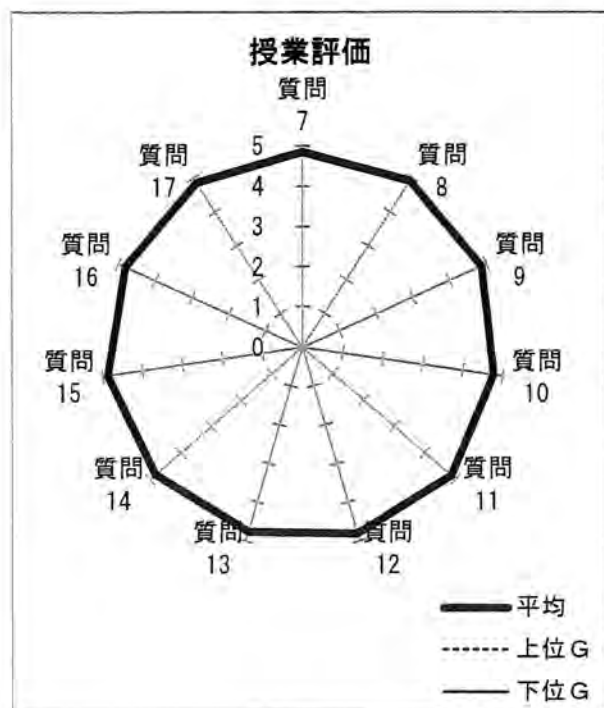


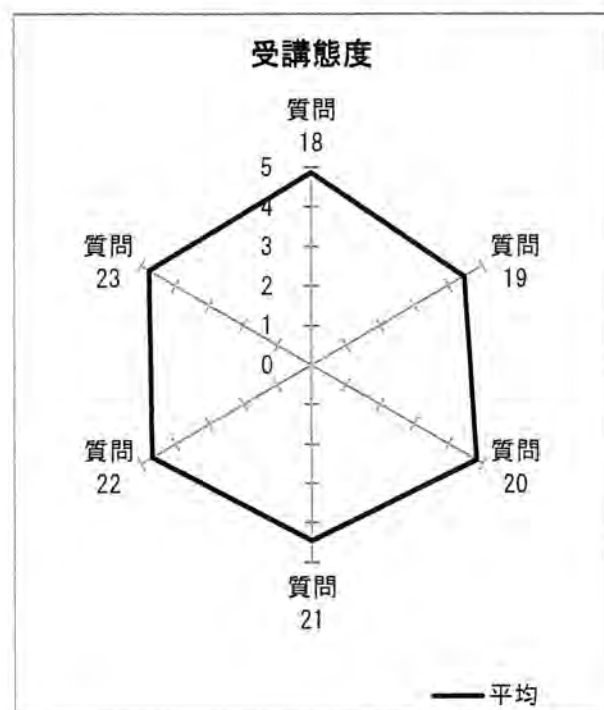
科目コード 800 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 重成 久美 保育原理Ⅱ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.5
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	重成久美	保育原理Ⅱ	24 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

当該科目は、2017,2018 年度子ども学科カリキュラムにおける保育士養成課程の選択科目であり、保育の本質・目的を理解するための必修科目「保育原理Ⅰ」の発展的な科目である。まず、本結果の受講態度を見ると、平均 4.7 点と非常に高い評価が示されている。中でも、18「授業に真面目に取り組んだと思うか」は 4.9 点、20「欠席回数」と 23「授業中の私語・携帯電話の自粛、教員及び他者の発言傾聴」はいずれも 4.8 点と比較的高評価であった。21「授業の予習・復習をおこなったか」については 4.5 点で 1 番低い評価であったが、総合的に見て、熱心に授業に取り組んだことがうかがえる。「授業の予習・復習」については、テキストや保育所保育指針の該当箇所を読んでおくことを授業外の学習方法として示しているが、毎授業時のアナウンスが不十分であったと思われる。予習復習の確認方法について検討していきたい。

一方、授業評価を見ると、平均 4.8 点とこちらも比較的高評価が示されており、7「授業の目的説明とシラバスに沿った実施」、8「教員の授業時間遵守」、9「教員の話し方」、11「教員の説明のわかり易さ」、15「授業を理解できたと思うか」、17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」の 6 項目はいずれも 4.9 点、残りの 5 項目は 4.8 点であった。当該科目は、1 年次の科目であり、開講時間が 9,10 時限であったため、出来る限り具体的で明解な理解ができるよう、毎回授業の初めに映像を用いて子どもを多面的に観察する時間を設けていた。段階的に子どもの観察ができるようになると面白く感じられたようで、その後の授業態度も意欲的になった様子がうかがえた。本授業は今年度で終了になるが、他の授業でも取り入れて行っていきたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

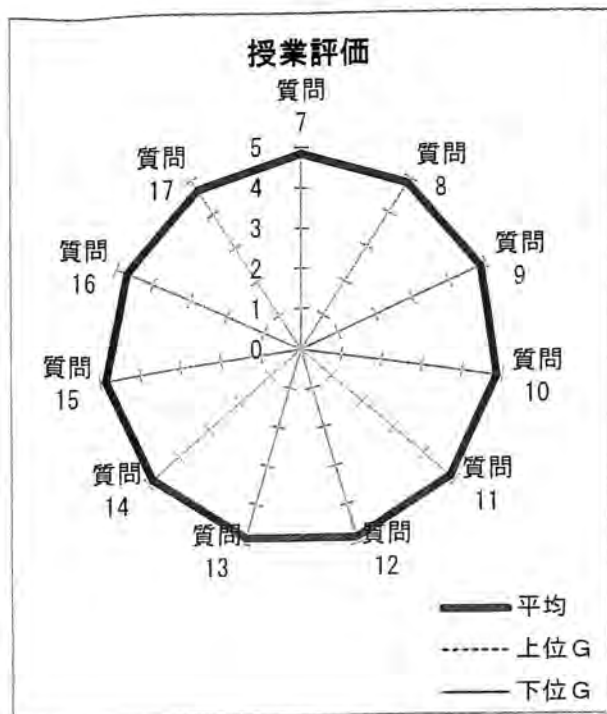
2019 年度担当予定科目名：障害児保育演習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

障害児保育演習は、2017,2018 年度子ども学科カリキュラムの保育士課程の選択科目であり、障害のある子どもの観察を丁寧に行うことを基本とするため、上記の授業方法をさらに調整して臨んでいきたい。

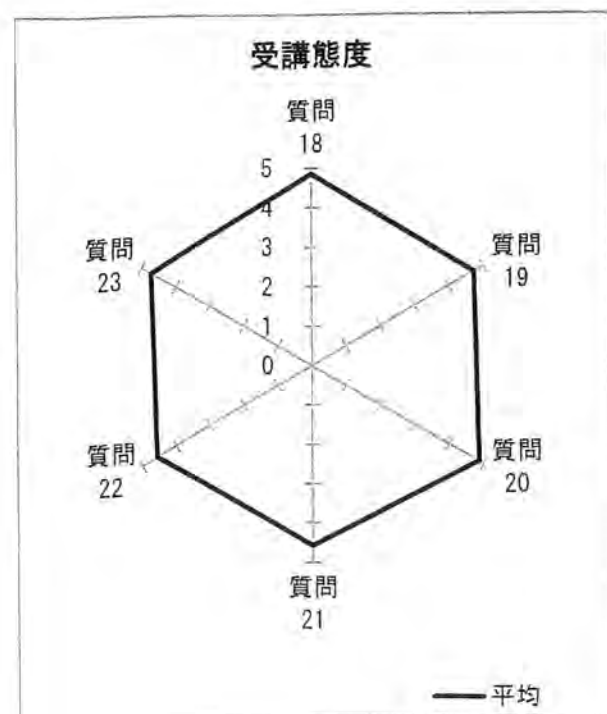
科目コード 801 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 重成 久美 4年セミナーb



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	重成久美	4年セミナーb	7名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

当該科目は、3, 4 年生で卒業論文の制作につなげていくための 2 年間に渡るセミナーの第二段階の科目であり、卒論の仕上げを行う内容である。

まず、本結果の受講態度を見ると、平均 4.7 点となっており、評価の高い項目は 18「授業に真面目に取り組んだと思うか」、20「欠席回数」は 4.9 点、19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」、23「私語・携帯電話の自粛、教員及び他者の発言傾聴」は 4.7 点、残りの 2 項目は 4.6 点であった。当該科目は卒論の指導をゼミ形式と個別指導を組み合わせで行ったため、主体的に取り組まざるを得ない状況だったと思われる。

一方、授業評価は平均 4.8 点とこちらも比較的良好であり、16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」、17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」が 4.7 点であったが、その他は全て 4.9 点であった。今期は時期的に卒論の完成が目的になり、精神的に追い込まれるような印象を持ちやすいかと思うが、それでも自身が興味を抱いたテーマについて楽しみながら深めていけるよう、今後は、授業の興味・関心を引き出す工夫や、新しい知識・技術等の習得への有用性を感じられるような工夫を行っていきたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

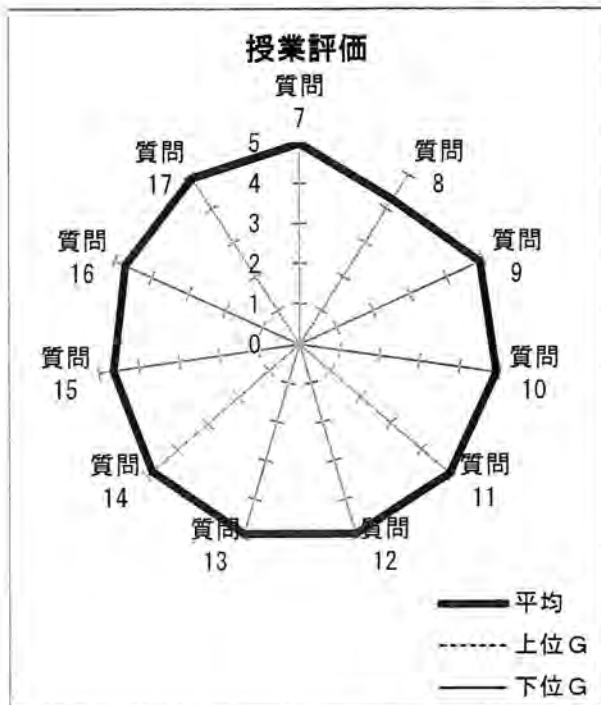
2019 年度担当予定科目名： 4 年セミナーb

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

自分の興味関心のもとに選んだテーマについて、楽しみながらまとめ、執筆していく面白さを味わって欲しいと願っている。そのために次年度は他学生と協力しながら分析を行うなど、他者の意見をとり入れながら質を向上させていく協力体制が取れるように工夫していきたい。

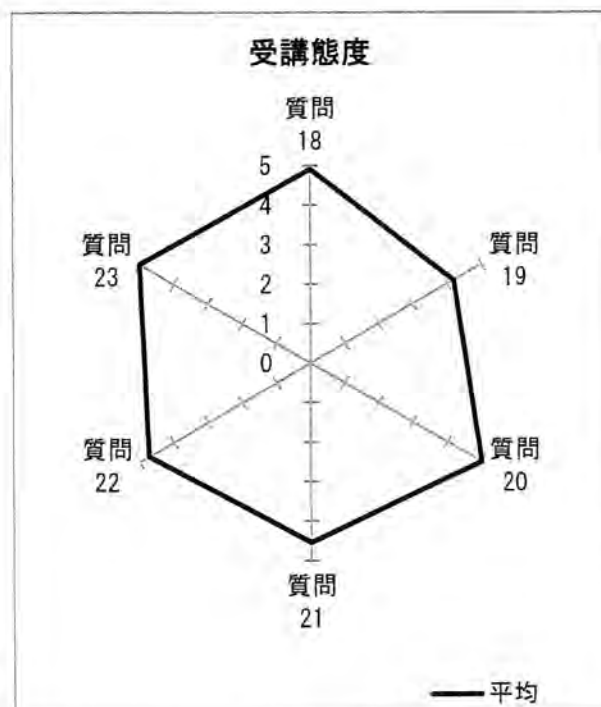
科目コード 806 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 江頭 ひとみ 健康相談の理論と方法



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.3	4.3	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.2
質問20	5.0
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	5.0
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	江頭 ひとみ	健康相談の理論と方法	11

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

○ 授業評価について

質問8「教員の授業時間遵守」が4.3で、この一つが特に目立った。授業の内容が多く、養護教諭になった時にここはできるようになってほしいとか、ここは理解しておいてもらいたいとか、内容の精選を十分にできなかったかもしれない。

質問15「(自分は) 授業を理解できたと思うか」が4.6であった。内訳は、「そう思う」が7名、「どちらかと言えばそう思う」が4名だった

質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」が4.7で、内訳は、「そう思う」が8名、「どちらかと言えばそう思う」が3名だった。

それ以外の項目は、4.8～5.0だったので、授業にスムーズのできたと考える。

学生にもっと力をつけていくためには、どの部分の学習内容の理解が難しかったのか、細部に振り返っていくことが必要と考える。

○ 受講態度の質問項目について

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」が4.2だった。授業内容が少し目標が高かったのかもしれない。講義目標を十分に理解させるように指導することが必要だったと思う。

質問21「授業の予習復習をおこなったか」については、4.5。次時の予告や復習の大切さ、自分のものにしていくことなど、指導していたのだが、定着まではいかなかったのかもしれない。

質問22「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」が4.7だった。学生が自ら授業に真面目に取り組んだ様子がわかり、良かったと思う。

○ 学生からのコメント

11名中5名がコメントを書いていた。「多くを学ぶことができた」とか、「理解することができた」とか、「内容が濃く、大切な学びばかりなので、復習をしていきたい」など、学生に伝わったコメントばかりで、講義をしてよかったと思った。

II. 2019年度に向けての取り組み

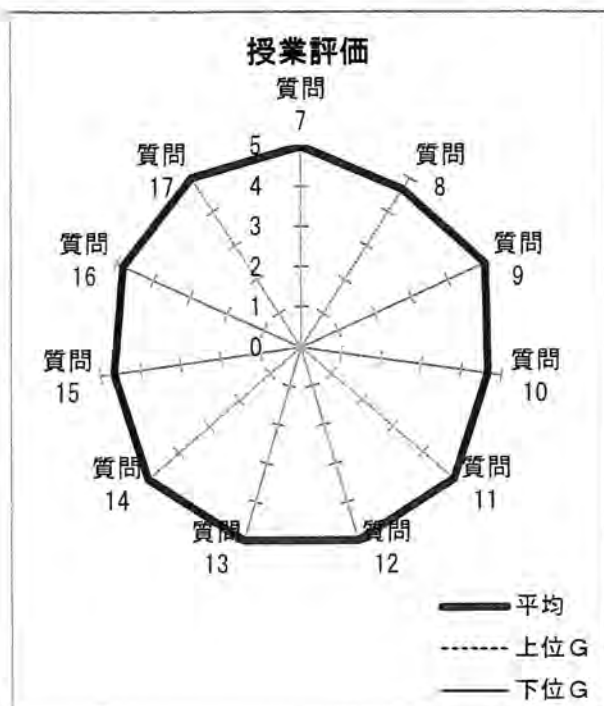
2019年度担当予定科目名： 「健康相談の理論と方法」

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- なぜこの講義が必要なのか十分に理解させ、学生自身が自ら求めて講義に取り組めるよう、その意義を指導していかなければならないと考える。与えられるものを漫然と聞くということでは身に付かない。学生が自ら学習していこうという気持ちを持てるような指を工夫していきたい。

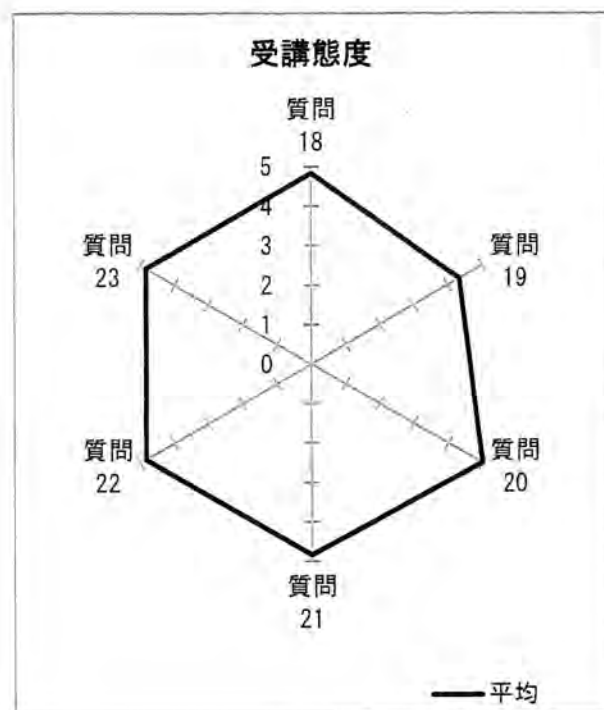
科目コード 807 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 江頭 ひとみ 3年セミナーb



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.3
質問20	5.0
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	江頭 ひとみ	3年セミナーb	6

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価において

質問8「教員の授業時間遵守」、質問10「教材・機器・板書等の効果的な使用」、
質問15「(自分は) 授業を理解できたと思うか」が4.7であった。
質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」が4.8であった。
他の質問は、5.0だった。

工夫しながら取り組んできたことが、学生に伝わったようで、学生からのエールのようにも感じた。

受講態度において

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」が4.3であった。
『そう思う』が4名で、『どちらともいえない』が2名だった。
それ以外は4.と5.0だった。

かなり、学生への要求水準が高かったようなものと思うが、4年セミナーから卒業論文へ、一緒に仕上げていけるように、また、学生の力を最大限に引き出せるようにこれからも見通しを立てながら続けていきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

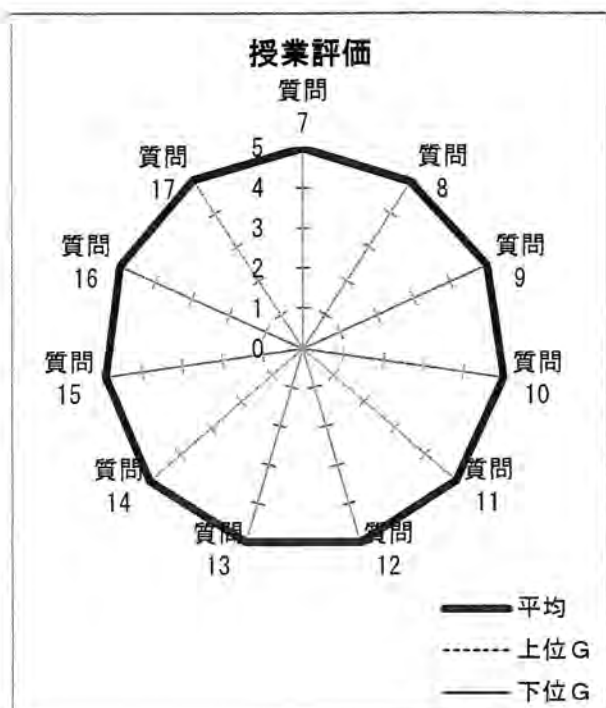
2019年度担当予定科目名： 「4年セミナーb」

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

人数が6名で、セミナーとしては少し多いと思うが、これからも個々に応じた指導を心掛けたい。考え、まとめる力をつけさせ、卒業してからも、見通しを立てていける人になってほしいと考える。そして私自身も学生と共に一緒に成長できるようなゼミでありたいと思う。

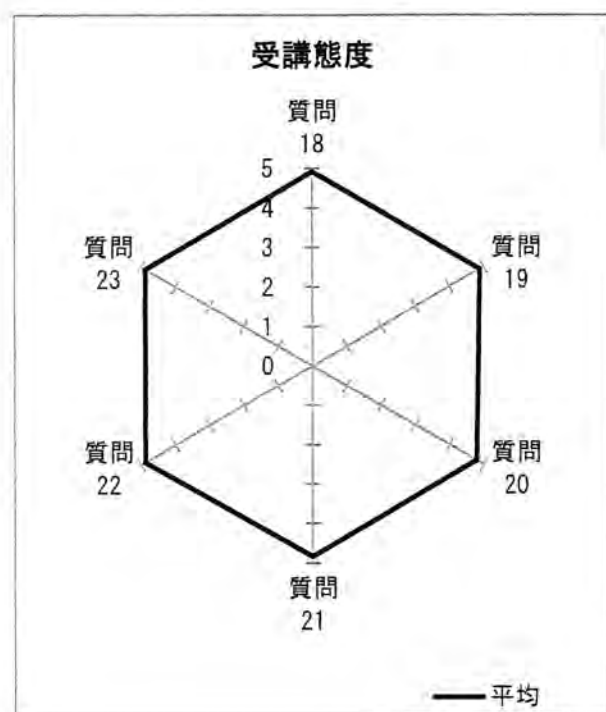
科目コード 808 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 石川 由香里 家庭支援論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.9
質問20	4.8
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	石川由香里	家庭支援論	24

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この科目は、保育士養成指定科目であり、保育・幼児教育コースの学生たちが受講している。授業の形態としては、パワーポイントを用いた講義と、グループワークとを組み合わせ実施している。今日の子育て家族の置かれた状況を理解したうえで、どのような支援が必要とされているのかを、なるべく具体的な形で考えられるように工夫した。講義においては、具体的な事例を紹介することで、自分だったらどのように対応するのか、想起してもらった。グループワークの内容としては、トラブル状況を想定してのロール・プレイング、子育て支援の場での関係作りのワークショップなどを行った。

この学年の学生たちには積極性がみられ、授業に対する反応も良い。そうした学生たちの主体的な取り組みにより、受講態度において下位グループに組み入れられるものが存在しない点こそが、最も評価できる点だと考える。

II. 2019 年度に向けての取り組み

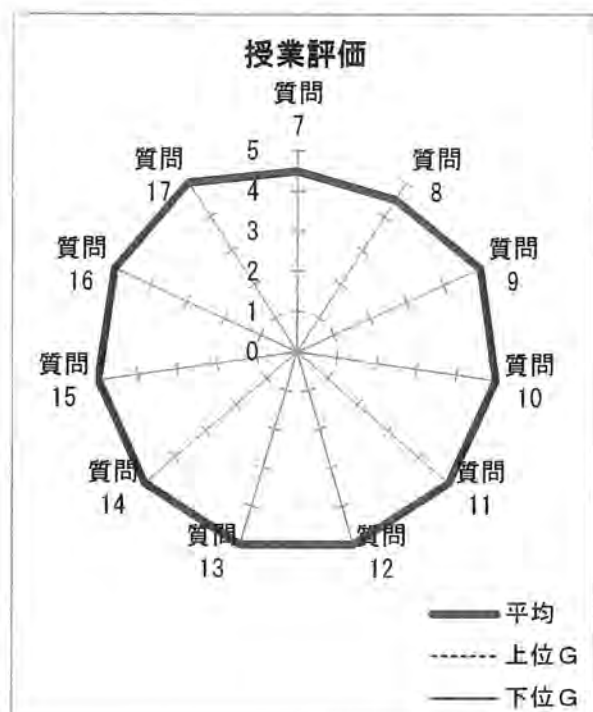
2019 年度担当予定科目名：家庭支援論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

保育士養成指定科目の変更により、2019 年度が最後の授業となる。前年度に好評だったロール・プレイングやワークショップは引き続き行いたいと考えている。講義で紹介する事例について、書籍等で紹介されているもののほかに、教員自信がフィールド・ワークにより得ることのできた経験を、個人情報取扱いに十分注意したうえで紹介することで、よりリアルなものとして受け止めてもらえるように努力したい。

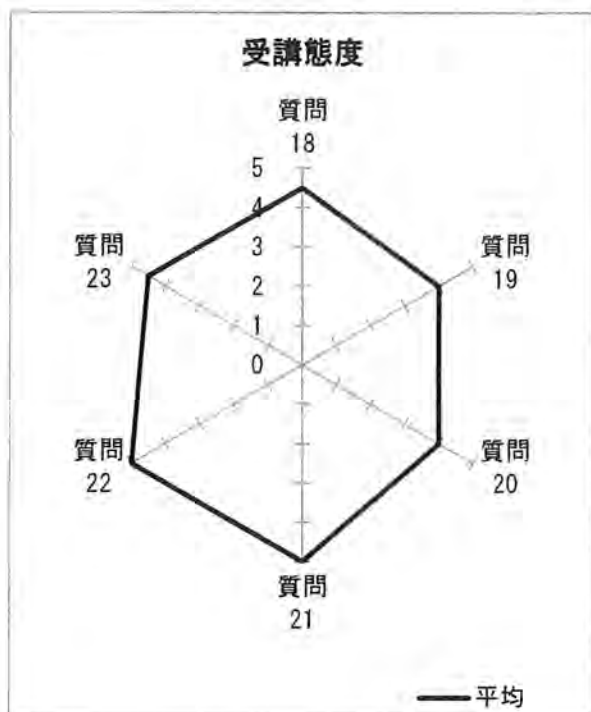
科目コード 810 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 政次 カレン Multicultural Education and Support



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 8	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.0
質問20	4.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	4.5
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	政次 カレン	Multicultural Education and Support.	2

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

Students were satisfied with the class and worked hard to understand the content. We examined the documentary 'Hafu', used online resources via Moodle, and articles in both English and Japanese to deepen students' understanding of the issues. Students gained first-hand experience by interacting with multicultural families at Coffee Morning, and produced Power Point Presentations on their chosen topics in English.

II. 2019 年度に向けての取り組み

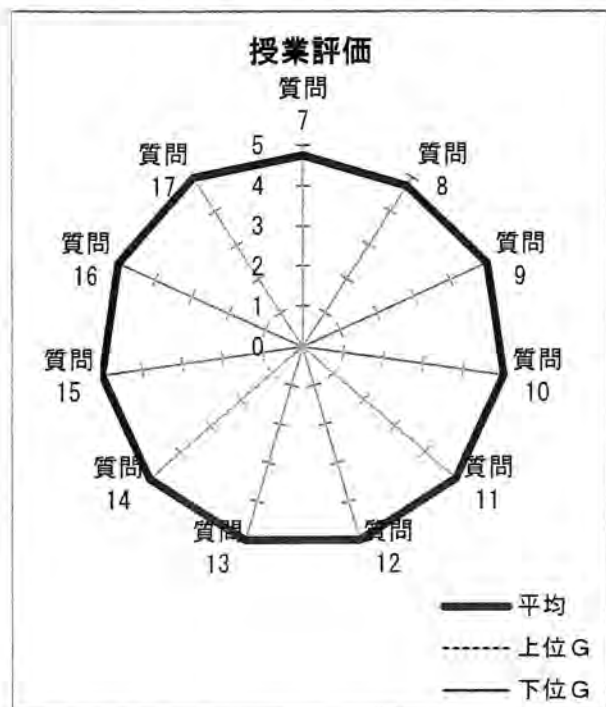
2019 年度担当予定科目名：Multicultural Education and Support

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I will continue to allow students to choose content of interest to them, and to use online resources via Moodle. I will try and give the students more support in the initial planning stages of their final presentations, and to give them opportunities to interact with people from multicultural or minority backgrounds in the local community.

科目コード 811 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 政次 カレン Early Childhood English Education Workshop II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

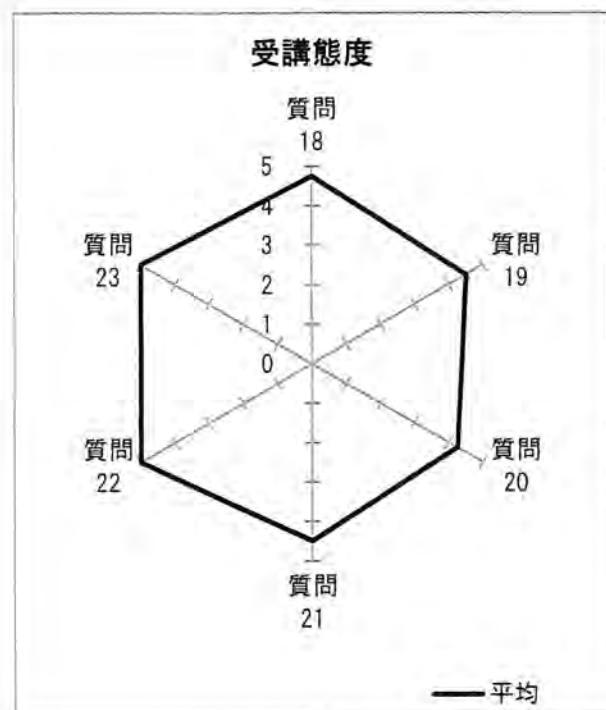
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.3
質問21	4.5
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	政次 カレン	Early childhood English Education Workshop II	5

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

Students seem very satisfied with this class. They worked hard to complete in-class tasks and teaching activities, and to plan, prepare and carry out an English Halloween Party for 2nd and 3rd graders at a local elementary school and a Christmas Party for three to six-year-olds at a local nursery school. Mostly students supported each other well, although one student had a problem with attendance.

II. 2019 年度に向けての取り組み

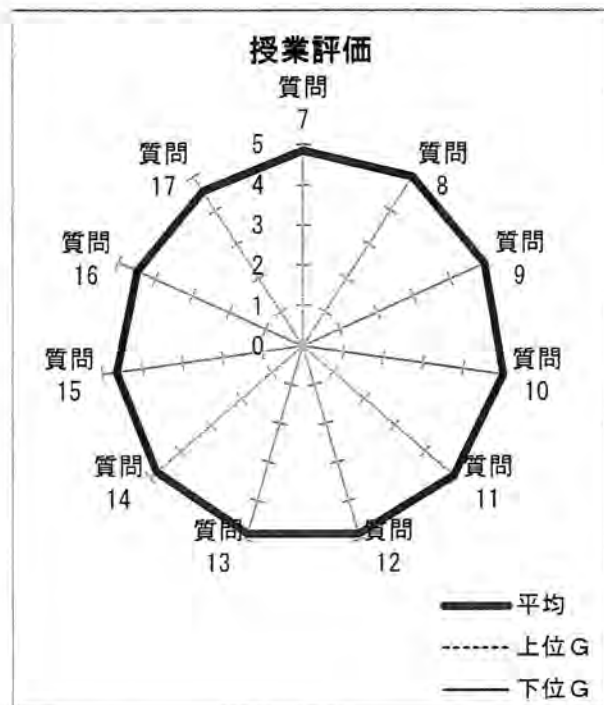
2019 年度担当予定科目名 : Teaching Young Learners Workshop II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

The class seems to be successful in its current format, although I would like the students to use more English in class, and to improve my assessment and feedback methods.

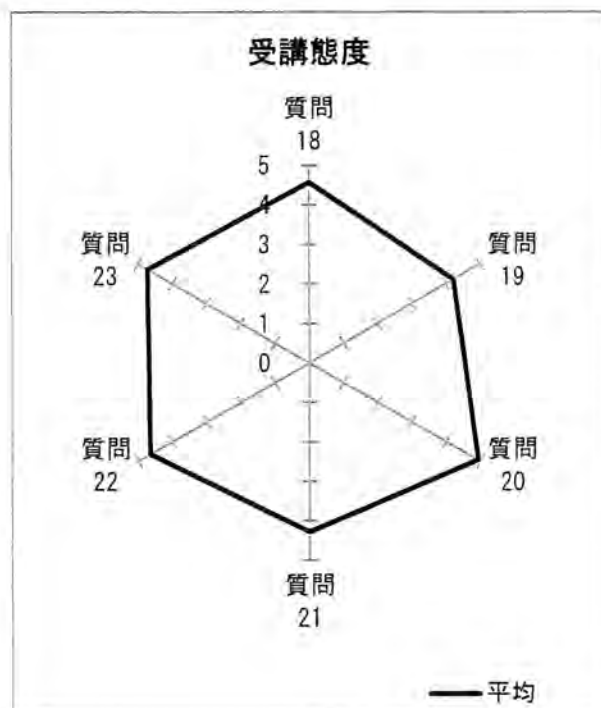
科目コード 812 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 政次 カレン Childcare English II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.5	4.5	#DIV/0!
質問17	4.6	4.6	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.2
質問20	4.9
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	政次 カレン	Childcare English II	15

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

The students seem happy with this class. The class atmosphere was good, with most students staying on task and working hard. I tried to give clearer explanations, and leave more time for questions to check comprehension more thoroughly. I tried to relate the lesson content to the students' own experiences, and to bring in extra materials which would interest them, for example movie extracts, song activities, finger-plays, nursery rhymes and picture books, as well as photo slideshows of Australian childcare environments and Coffee Morning events. I also share my own experiences of Japanese childcare from the point of view of a foreign mother.

II. 2019 年度に向けての取り組み

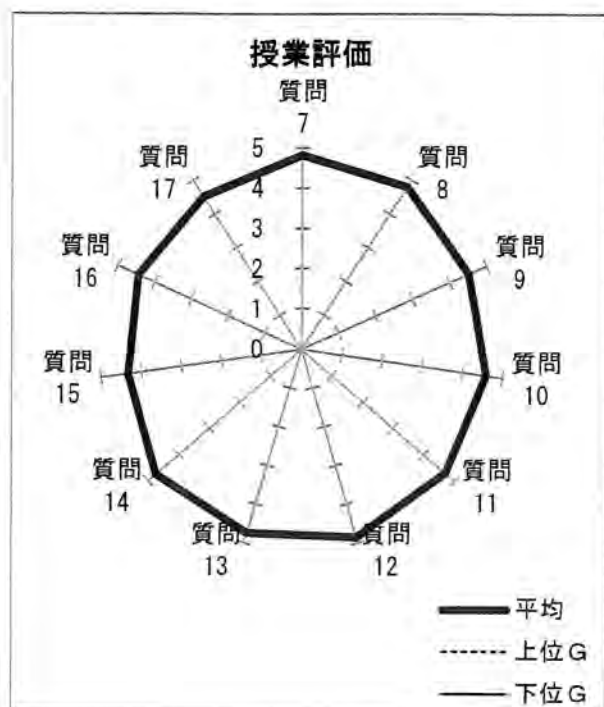
2019 年度担当予定科目名： Childcare English II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I will continue to give clearer explanations of the class aims and content each week, and to explain the relevance of the content to the students' future careers in childcare or education. I will pair and group the students so that stronger students can help weaker students.

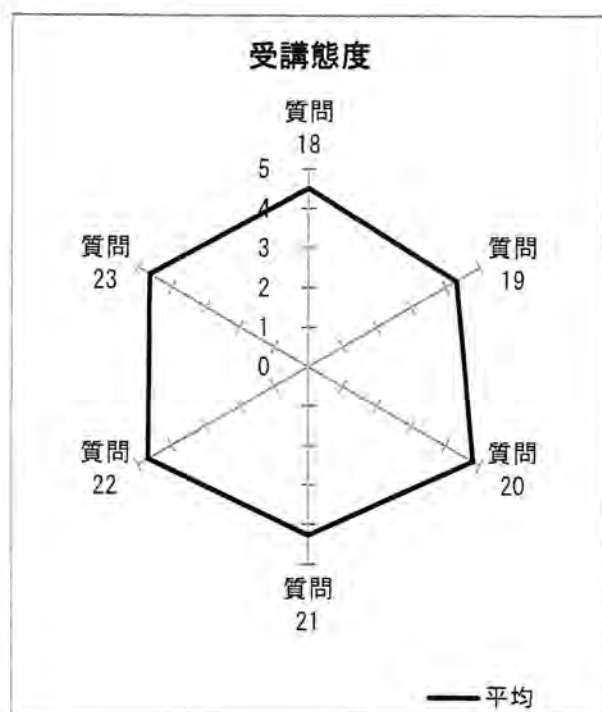
科目コード 815 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 金 珉呈 児童家庭福祉Ⅰ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.5	4.5	#DIV/0!
質問10	4.6	4.6	#DIV/0!
質問11	4.7	4.7	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.3	4.3	#DIV/0!
質問16	4.4	4.4	#DIV/0!
質問17	4.5	4.5	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	金 珉呈	児童家庭福祉Ⅰ	31 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

「児童家庭福祉Ⅰ」は、これまで自分の問題としてあまり深く考えてこなかった大学1年生にとっては、社会福祉関連の専門用語に対する違和感、対象範囲の広さおよび複雑さなどにより、受講当初から「むずかしい」と感じる授業である。

今年度の「児童家庭福祉Ⅰ」の授業アンケートのなかで一番平均点が低い項目が「質問 15(く自分は)授業を理解できたと思うか)」(平均 4.3)である。こういう結果になった背景には、慣れない専門用語の概念整理、社会のなかで自分も含めた人々の各種の生活問題を考えていくことへの変容があると思われる。

しかし、毎回授業の最後に実施しているリアクション・ペーパーや今回の授業評価アンケートの数字からは、授業内容を十分理解するまでは時間が必要な科目ではあるが、保育士資格のための専門科目として一人ひとり学生の興味と関心が高いことが分かる。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名:子ども家庭福祉

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が授業に興味を持ち、意欲的に参加できるように引き続き、以下の教育方法の工夫を行う。

①授業の構成やレジュメ作成上の工夫

:90 分授業で概ね3つの小テーマを用意し、メリハリのある授業を行う。またレジュメには「本日の授業内容」を明記し、冒頭に確認して学ぶ内容のイメージを提示するとともに、学生が授業後に達成度を評価できるようにしている。

②授業を進め方の工夫

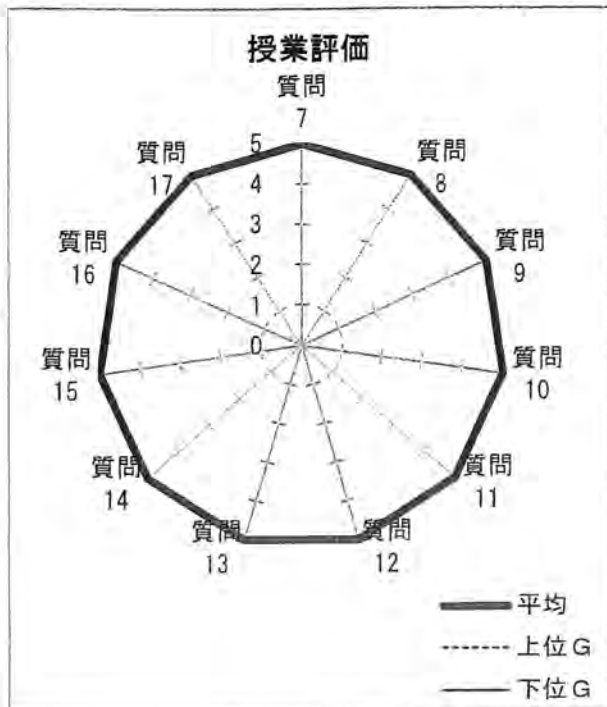
:授業では問いかけを行い、常に学生に考えることを促す。問いかけや視聴覚教材などを観た後は、必ず意見や感想を聞く。決められた時間の中で自分の考えを言語化し、他者に伝えることは実習や就職してから必要なことである。

③双方向的な授業にする工夫

:毎回「リアクション・ペーパー」を提出してもらい、次回にフードバックすることで、以下の教育効果を実感している。まず、学生がどの程度理解できたのか、また私の説明が不十分な個所を知ることができる。また、授業から他人の考え、価値観の多様性を実感し、自分の考え、価値観を相対化することに役立つ。さらに、「読んでもらい自信がついた」など、学生の学習意欲向上にも有効である。

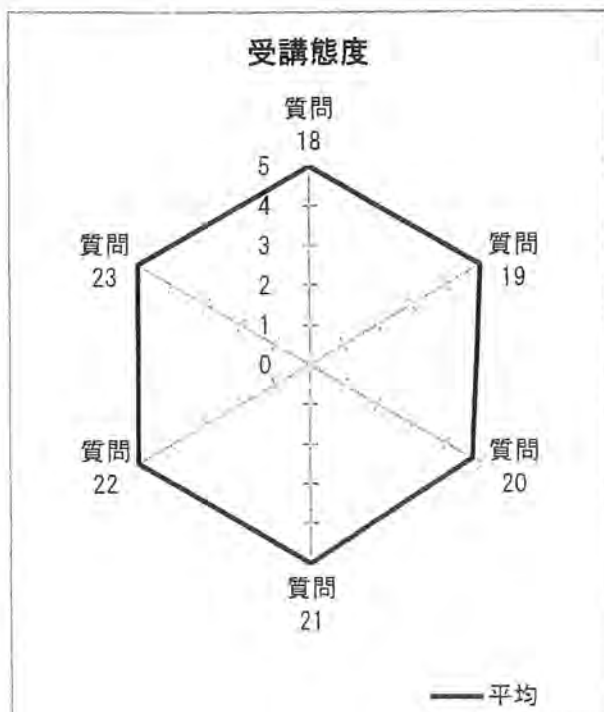
科目コード 816 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 金 珉呈 4年セミナーb



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.8
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したが
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	金 珉呈	4 年セミナーb	4 名

2018年度後記授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

少人数のゼミでの授業評価アンケートであったため、全体的に評価は高い。

4年になって、3 年次から考えてきた自分の研究テーマを固め、卒業論文を作成してきた。毎週ゼミのメンバーの前で、自分の卒論の執筆状況についてレジュメを作成し、報告することを重ねていくなかで、論文の形を作ってきた。また、自分の違う考えを持つ相手と話し合いを行うなかで、物事に対する多面的な捉え方や考えの多様性について気付き、自分の異なる相手を受け入れ、共感する力が付くと思われる。

集団として行うゼミ活動と、一人ひとりに対する個別指導(研究テーマの設定や報告書の作成など)をバランスよくとりながら、引き続き、学生一人ひとりが意欲をもち、主体的に授業に参加できるような授業の内容について工夫していきたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名:4年セミナー

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が授業に興味を持ち、意欲的に参加できるように引き続き、以下の教育方法の工夫を行う。

①授業の構成や内容について

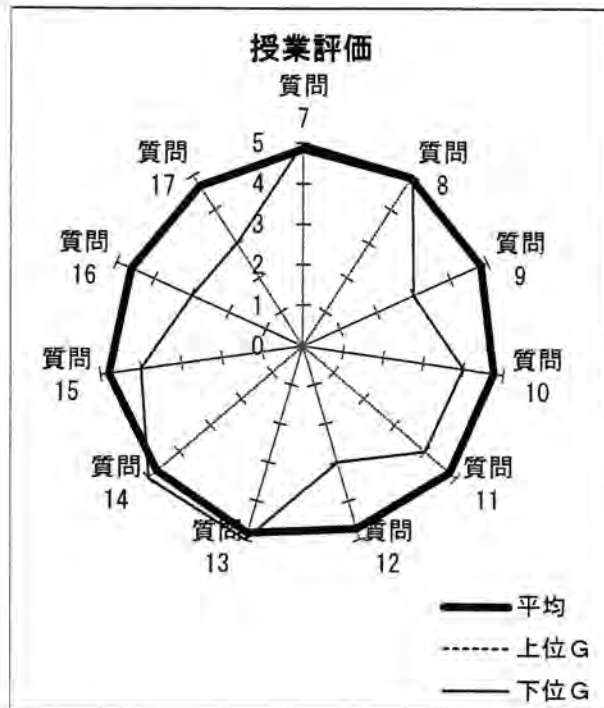
:一人ひとりの自分の研究テーマに基づいて、卒論作成に取り組む。まずは、これまで行われてきた先行研究を中心に、研究の目的と章立てを明確にしていく。学生一人ひとりに対する個別指導を通して毎週論文の執筆状況を確認する。卒論提出が終わってからは、「卒論発表会」の要旨とPPT資料の指導を行う。最後は副査からいただいた卒論のコメントをもとに、卒論返却および個別指導を行い、学生と一緒に総括を行う。

②授業を進め方の工夫

:授業では問いかけを行い、常に学生に考えることを促す。卒論テーマは学生本人の問題意識から出発できるように、個別指導の時期を早めに設定する。就活や実習など、一人ひとり卒論に取り組める時期が異なるため、各自の1年間の予定および計画を立て、個別指導を行う。

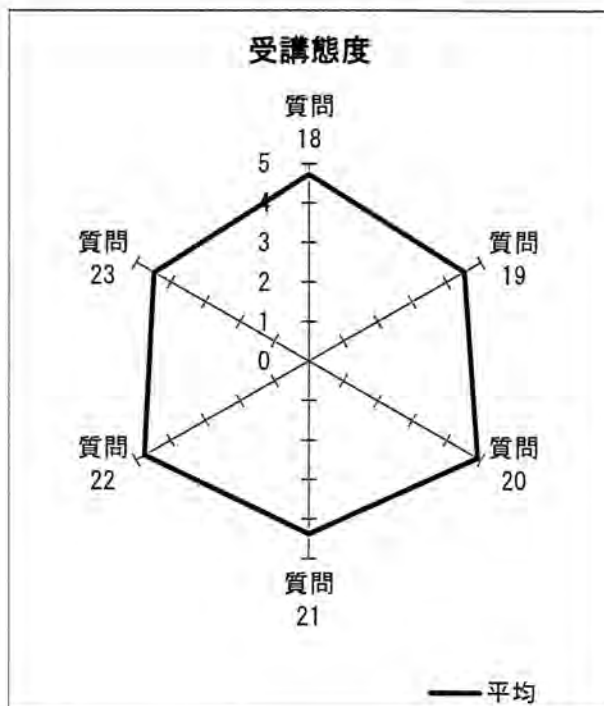
科目コード 817 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 篠永 洋 造形表現 I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.8	4.9	3.0
質問10	4.8	4.8	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.7	4.8	3.0
質問13	4.8	4.8	5.0
質問14	4.7	4.7	5.0
質問15	4.8	4.8	4.0
質問16	4.6	4.7	3.0
質問17	4.7	4.8	3.0
平均	4.8	4.8	4.0

質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8：教員の授業時間遵守
 質問 9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.4
質問22	4.8
質問23	4.5
平均	4.6

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛。教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	篠永 洋	造形表現 I	31

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

質問 9, 12 について、上位 G と下位 G の差が大きい。教員の話し方については、授業の構成から主に前半に多く喋っているが、その中で「話し方」に問題があった自覚が無い。これは次年度への課題となるので、話をしながら学生の反応を注意深くみるようにしてゆきたい。授業環境に対する配慮については、造形活動を手を動かしながら行っている場面で、様々な会話が行われているが、教員による場のコントロールがうまくいってないと考えられる。毎回指摘されているが、そう感じる学生が少しでも減るように気をつけてゆきたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

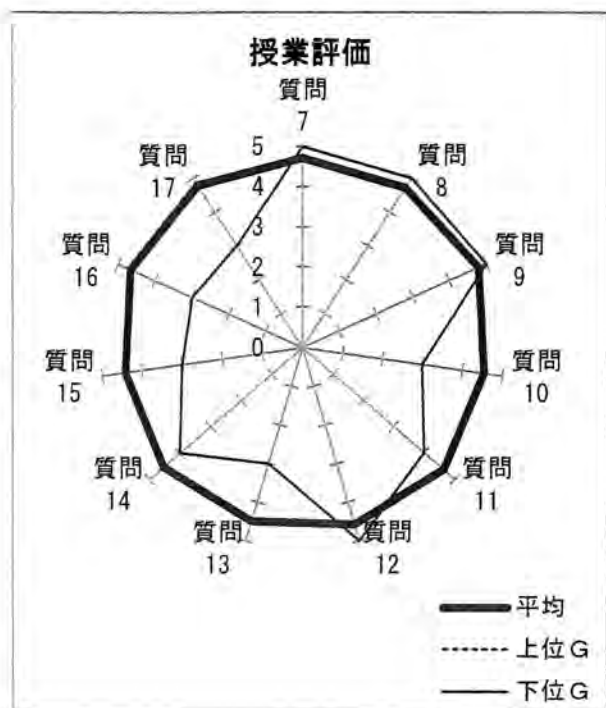
2019 年度担当予定科目名： 造形表現

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

カリキュラム変更により、時間数が減少する。1 コマに入れる内容を詰め込みすぎないようにバランスを考えながら授業を構成するようにしてゆきたい。

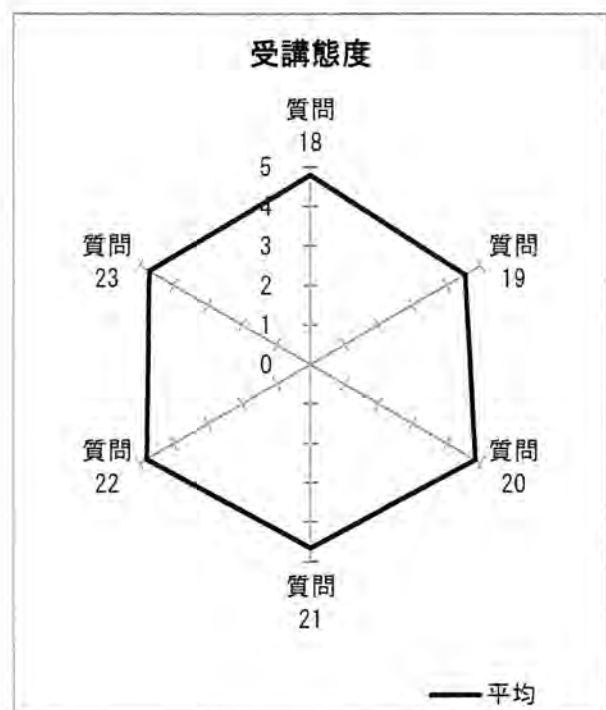
科目コード 818 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 福地 友子 音楽表現Ib



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	5.0
質問 8	4.7	4.7	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.5	4.6	3.0
質問11	4.6	4.7	4.0
質問12	4.6	4.6	5.0
質問13	4.5	4.6	3.0
質問14	4.5	4.6	4.0
質問15	4.4	4.5	3.0
質問16	4.7	4.7	3.0
質問17	4.8	4.9	3.0
平均	4.6	4.7	3.9

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.8
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.7
平均	4.7

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	福地友子	音楽表現 I b	23 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

当該科目の音楽と音楽理論についてアンケートを行った。

今年度も音楽の授業では、子どもの発達を支える音楽表現に関する知識と技術を習得することを目的とし授業を行った。毎時学生による手遊びの発表などを行い、発達を踏まえた保育現場での活用法についても学んだ。

音楽理論では、授業終了後暫く残り、質問の機会を作り、単元毎に小テストを行い、理解度の低い学生に対しては、個人指導を行った。

授業評価については、上位 G は平均 4.5～4.8 と概ね良好だったが、下位 G の対象は 1 名のみだが、平均は 3.0～5.0 で、学習意欲に繋がる質問 15、質問 16、質問 17 の 3 項目も含め 3.0 の項目が 5 つもありかなり厳しい評価だった。受講者が今年度は少なかったため、殆どの学生と積極的にコミュニケーションを取り、学生の把握に努め、より細やかな授業を行えたと思っていたが、行き届いてなかったようだ。

受講態度においては、平均 4.4～4.6 と概ね良好であった。

質問 21「授業の予習・復習をおこなったか」においては、平均 4.3 と一番低い評価になっていたが、毎時の手遊びの個人発表、音楽理論の課題提出などを頻繁に行い、みな意欲的に取り組んでいた。

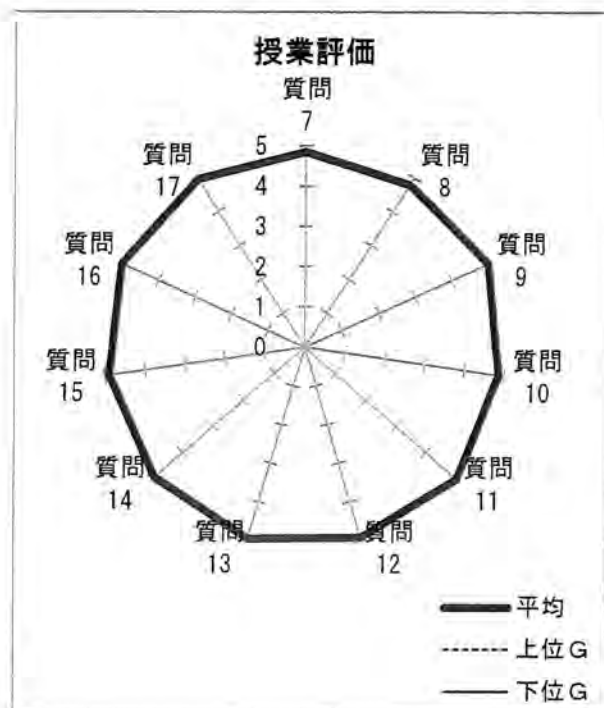
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：音楽表現 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)
様々な学生の思い、ニーズに応えられるよう、個別に向き合える機会を増やし、学生の習熟度を常に把握し、意欲を持って取り組める授業の展開を行っていきたい。

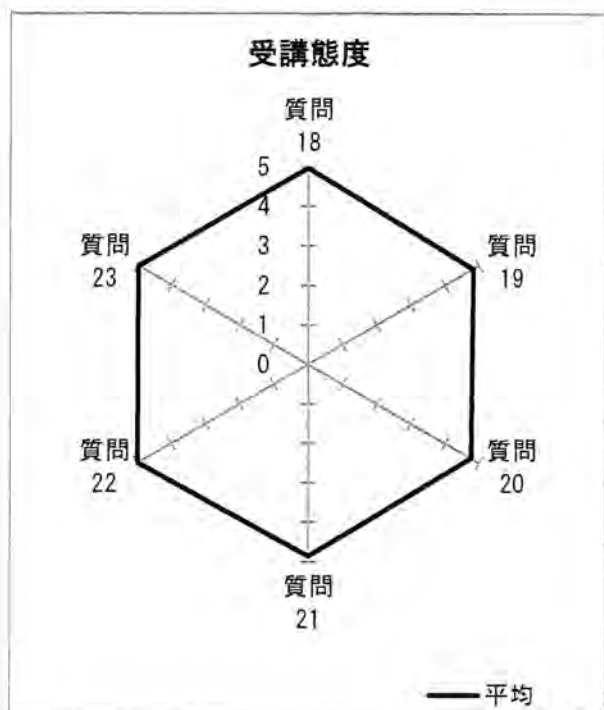
科目コード 819 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 福地 友子 保育内容(表現)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.8
質問20	4.8
質問21	4.9
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	福地友子	保育内容「表現」	29 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2015 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

保育における子どもの多様な表現を読み取り、より豊かな育ちへつなげるため保育者として必要な感性と技術の獲得を目指すため、感動をテーマにスピーチや総合表現活動であるミュージカル作りを行った。

まず授業評価については、受講者全員から平均 4.8 から 5.0 の高い評価を得られており、特に質問 9「教員の話し方」、質問 11「教員の説明のわかり易さ」、質問 13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、質問 16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」質問 17「新しい知識・技術・理論等の習得への有効性」の 5 項目においては、5.0 の評価だったのは、限られた時間、環境を有効活用し、学生と常に向き合い、確認をしながら、授業を行ったことが、良い評価に結びついたものと思われる。

受講態度においても平均 4.8 点から 5.0 と高い得点だった。

ミュージカル制作の過程では、様々な葛藤もみられたが、自分以外の表現を受け止め、評価することにより、コミュニケーションの重要性を再認識し、人と繋がる喜び・共感を感じ取るができ、更に自己肯定感へと結びついたと思われる。授業以外にも、自主的に取り組む姿も度々見られたことも、自己評価の高い得点へとつながったものと推測される。

本調査のシートの裏に、「やっぱり、劇するのは楽しかったです」と手書きされていたのは、大変励みとなる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

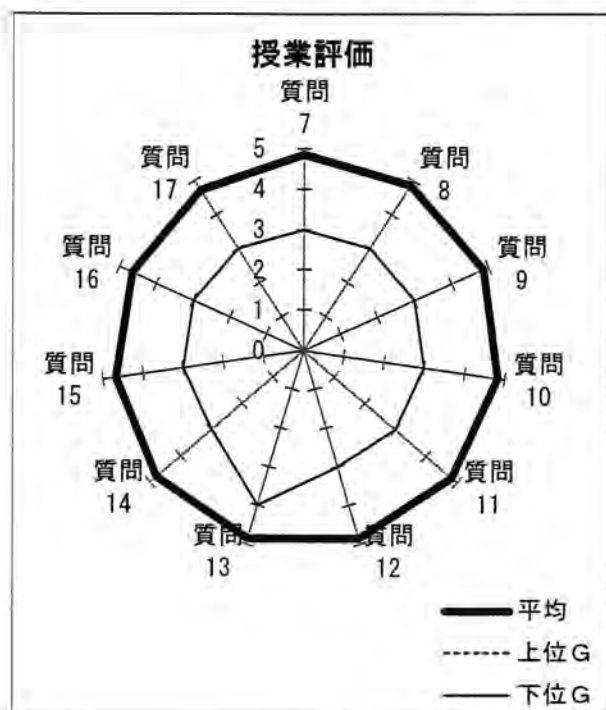
2019 年度担当予定科目名：_____ 保育内容「表現」

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度も学生と丁寧に向き合い、学生自身が積極的に取り組んでいける授業を行いたい。

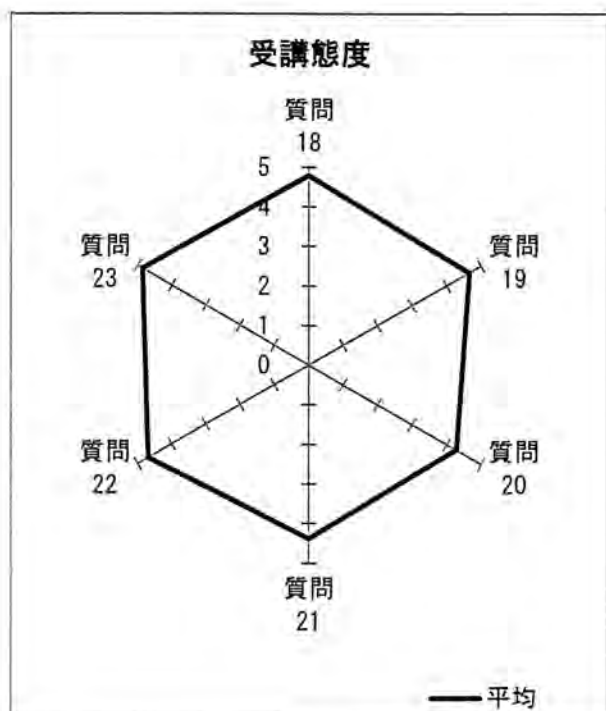
科目コード 820 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 前田 志津子 保育・教職実践演習Ⅱ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	3.0
質問 8	4.9	4.9	3.0
質問 9	4.9	4.9	3.0
質問10	4.8	4.9	3.0
質問11	4.8	4.9	3.0
質問12	4.9	4.9	3.0
質問13	4.9	4.9	4.0
質問14	4.8	4.9	3.0
質問15	4.7	4.8	3.0
質問16	4.7	4.7	3.0
質問17	4.7	4.8	3.0
平均	4.8	4.9	3.1

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.7
質問20	4.3
質問21	4.4
質問22	4.7
質問23	4.9
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	前田 志津子	保育・教職実践演習Ⅱ	31 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

総じて上位 G と下位 G との差が如実に現れる結果である。ただ一つは質問 13：質問機会の確保と質問への適切な対応の項目においては、両者近づく傾向であるが、この差はどのように解釈したらよいのか、教員としては疑問である。

本授業の受講者は、幼稚園教育実習指導において、事前事後指導をとおして、個別指導とともに一人ひとりに応じた指導を行ってきている。

ただ保育・教職実践演習Ⅱの授業は、オムニバスゆえ正確な評価とは言い難いと感じるところである。

Ⅱ. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今後、いずれにしろ一人ひとりの状況を把握しながら丁寧に向き合って進めていく。そして、受講生自身が主体的に自己課題を生み出していけるよう授業改善工夫していく。